

前期課程

修学旅行で学んだこと

六年A組 小坂井 杏莉

私が修学旅行で学んだことは、昔の人が残したもののや建物への思い。そして、友達の大切さです。

昔の人が残したもののや建物への思いでは、金閣の鳳凰の意味が印象的でした。なぜなら、永遠の命と権力の象徴だったからです。

私は、この意味に金閣を建てた足利義満の強さを感じました。他にも、聖徳太子が建てた法隆寺、東大寺大仏殿などでも、人を感じる気持ちを感じました。理由は、恐れを無くそうとする人々の願いがこめられていたからです。

友達の大切さでは、宿や京都班分散など、いろいろなところで、ガイドさんやクラスのみんなど関わりました。ガイドさんの話を聞いて歴史を感じることができました。友達とは、カードゲームをしたり、ご飯を食べたり、一緒に寝るなどし、より仲を深めることができました。また、新しく友達のをさを発見することができました。そして、私が気付いたことは、助けてく



れる、やさしくしてくれる友達をこれからも大切にしていきたいと思いません。

多くのものや人と関わる中で、それぞれの大切さを深く学ぶことができた二日間でした。

修学旅行で学んだこと

六年A組 佐藤 結

ぼくは、修学旅行に参加して、特に心に残ったことが二つあります。

一つ目は、班別行動です。ぼくは、東福寺へ行きました。東福寺の八相の庭は、とても幻想的で感動しました。砂利で模様を描かれていて、とても美しかったです。この庭をどのようにつくったのか新たな疑問が浮かびました。東福寺には、とても大きく立派な南大門があり、歴史を感じることができました。

二つ目は、宿に泊まったことです。活動班とは違う班で過ごし、たくさんさんの友達との仲を深めることができました。約六年間、共に過ごしてきた友達も、今までに見たこともない一面を見ることができました。改めて、面白さとよさを見つけたことができました。また、ト



ランプで大富豪というゲームを行い、楽しい時間を過ごすことができました。

この修学旅行で、友達との仲が深まり、たくさんさんの知識を得ることができました。これからは、今まで以上に友達とコミュニケーションを増やし、仲間を大切にしていきたいと思いました。

修学旅行を振り返って

六年B組 下里 心春

私は修学旅行に行って京都、奈良の歴史について学ぶことができました。まず京都の金閣について学んだことが二つあります。

一つ目は金閣の部屋の中のことです。一階は貴族の部屋で、金ではなく木で作られた部屋でした。二階は武士の部屋で三階は仏像が置いてある部屋でした。二階、三階は金でおおわれており、二枚重ねになっていました。屋根の上にある鳳凰は五枚重ねで貼られていました。

二つ目は金が石川県の金沢市から運ばれてきたことです。昔は車や電車などが通っていないのに、石川県から京都府まで運ぶのはとても大変な作業だと思い、びっくりしました。

次に奈良です。奈良の大仏殿の外には、仏教の伝わり方が表されていることが分かりました。初めにインド、次にロシア、中国、韓

国、そして日本に伝わってきたことが、石の色で表されていました。日本にもっと早く伝わっていたと思っていたのですが意外に遅かったです。大仏殿に入っても大仏の顔が見えないことにおどろきました。修学旅行で学んだ日本の歴史のことを覚えていきたいです。

後期課程

創作奉仕部 人数が増える

八年A組 大海 まな

元々九年生が二人、八年生が二人しかいなかった創作奉仕部ですが、七年生が新しく七人入ってきてくれて、静かだった部活動が一気ににぎやかになりました。そのため、村民体育祭のバザーで出品するミサンガやビーズ作品、しおりなどをたくさんつくることができ、多くの方に買っていただきました。私は、そのようなことができたのは九年生の姿を見てきたからだと思います。先輩方にしていただいたことを今度は自分が後輩に伝えていく番なので、よい手本になれるよう精一杯頑張りたいと思います。



ソフトテニス部 部長になつて変わったこと

八年A組 山田 莉央

先輩が引退して、私は部長になりました。自分自身は積極性が増し、部としては人数や環境の変化があり、雰囲気が変わりました。先輩たちが引退したことで、もめることが増えるのではないかと予想していました。しかし、先輩方が部長に限らず全員で協力して部をまとめていたことを思い出し、うまくまとめていけるように頑張りたいと思いました。また、八年生が部をまとめることが当たり前になっていくのにもめていてはいけないとも思っています。慣れないこともありますが、部長として一年間頑張ります。

男子卓球部 部長になつて頑張るポイント

八年A組 小池 縁

僕が部長になつて頑張っていることは、サブやレシーブの練習をたくさんすることです。なぜなら、卓球にはいろいろな型で打つ選手がおり、その人達の球をしつかりと打ち返すことができれば、大会で勝てると思うからです。また、部長として苦労していることでもあります。それは、七・八年生をまとめていくことです。僕は、自分の考えを発言できる方ですが、

野球部 の成長

八年A組 久野 結心

新しい取組などを考えるのは苦手です。これからは部長として新しい取組を考え、今よりもよいチームになるように、最後の一年、あるべき姿で部長をやり遂げたいと思います。

僕たち野球部は、八年生主体で夏の大会を戦い、九月の新人戦も乗り越えてきました。新人戦は、同年代のチームと戦う初めての公式戦でしたが、五対六で負けてしまいました。でも、八年生がレベルアップしたと感じました。これまでは、打つて点を取ることがなかなかできなかったけれど、その試合では、相手のミスではなく、自分たちのバツティングで得点することができました。七年生が入部し、練習を頑張っているのでも、自分自身後輩に負けないように、部としては大会で勝てるように、一丸となつて頑張っています。

サッカー部 新チームになつて

八年A組 長谷川 陽太

九年生が引退し、新チームになつていろいろなことが変わりました。一つ目はメンバーが大幅に替わったことです。今まで、試合

に出場するメンバーのほとんどは九年生でした。しかし、代が替わつてからは、八年生の部員数が少ないため、七年生の多くの部員が試合の先発メンバーになりました。二つ目はチームの作戦が変わつたことです。選手が入れ替わり、チームとしての守備や攻撃の戦術も変わりました。僕たち八年生は部員が少なく、まとめるのが大変だったり困ったりすることもありますが、チーム一丸となつて頑張ります。

女子バスケケットボール部 代が替わつて

八年A組 山田 花恵

私たちは八年生三人、七年生九人で目標に向かって日々練習しています。先輩の引退後、初めは行動が遅かったり、挨拶や声が出せなかつたりと、技術面以外でもできないことが多くありました。先輩方が引退してから、私たちは「支えられていたんだな」と、改めて実感しました。不安を抱えながら挑んだ新人戦では、海部地区で三位になることができました。しかし、試合中の苦しい時間帯に声掛けができないなど、チームとしての課題も見つかりました。なので、この結果に満足せず、部員全員で少しずつ成長していきたいです。

女子卓球部 部長になつて

八年A組 豊田 織音

私が部長になつて頑張りたいことは、自分ができることなどを先輩に伝えていくことです。卓球部は先輩と後輩の壁がなく、仲よく話すことができます。ですが、なれ合いになると成長につながらないので、話すときと練習するときのメリハリをつけて活動をしていきたいです。先輩が引退したときは、部員をちゃんと引っ張っていかれるかとても心配でした。しかし、自信をもつこと、臨機応変に行動することを心がけたら、少しは部長らしく行動できるようになったと思います。先輩よりは頼りないかもしれないけれど、部長として頑張っています。

飛島学園 2月の行事予定

- 6日(火) チャレンジ教室
- 13日(火) 9年卒業テスト
- 13日(火)~15日(木) 7・8年第4回テスト
- 15日(木) クラブ
- 16日(金)、20日(火) 6年生部活動体験入部
- 21日(水) 8年生上級学校訪問
- 28日(水) 9年生を送る会
- 29日(木) 委員会